



里山の森づくりの担い手育成事業2025

南丹の森で学ぶ

取り組みと成果のまとめ

2026年3月

特定非営利活動法人つむぎ

はじめに

2025年8月から11月にかけて、南丹市内各地で「南丹の森で学ぶ」として「地域性苗木づくりと自然配植の植栽技術」と「多様な林業とチェーンソースキル」の2つの連続講座を各4回ずつ開催しました。この講座は、持続可能な里山環境維持のための活動の一環として、特に、里山の森づくりの担い手育成を目的としたものです。南丹市内外の専門家を講師に、学びと実践を重ねることで、今後、多様な形で山や森に関わる人が増えることを目指しています。

森林や里山資源の需要の減少に伴い、山に入って作業をする人や、日々の暮らしの中で山林と関わる場面も大幅に減り、地域住民も含めて、山や森林への関心が低くなったと言われています。また、高齢化と後継者不足に伴い、山を健全に保っていた技術や、地域の山の知識、利活用の知恵も失われつつあります。

背景

2006年に4町（美山町、日吉町、園部町、八木町）が合併してできた京都府南丹市は、616km²の広大な地域に2万9,018人が住んでいます（2026年度3月現在）。豊かな森林と丁寧な維持されてきた農村と里山環境が残る地域も多く、京都市内へのアクセスもよい街のエリアの利便性もあります。しかし、日本中の地方都市が直面する少子高齢化や人口流出は南丹市でも顕著にみられ、合併以降、人口が7千人以上減少し、また65歳以上の高齢化率は市全体では36.4%、一部地域では40%を超えるところもあります。（出典：南丹市農業の概要：令和6年度南丹市農業推進課）

この高齢化と人口減少の影響は、農業や林業の担い手の急速な減少とも直結しています。それは、里山環境を維持する担い手が減少しているということでもあり、農村の集落機能全般の低下と共に里山環境の維持という点でも大きな課題となっています。



人の手が丁寧に入っていたからこそ維持されてきた豊かな里山の環境は、その維持が難しくなった今、特に中山間地における影響が著しく現れています。豪雨や雪害などがもたらす脆弱な環境への被害や、生態系の変化による動植物への影響など、私たちの暮らしや重要な地域産業である農業にとっても大きな問題になっています。

この活動を通して、行政や林業事業体などだけではなく、地域内外の課題意識を持つ人や地元住民が出会い、今後どのように森と関わっていくことができるのか、どのような協働が可能なのかを模索する場を持つことができました。南丹の豊かな森林を大切な地域資源として維持し、有効に活用していくことができる土台が作られることを願いながら、この冊子で今年度の学びを振り返りたいと思います。

南丹市の森林は、5万4千haあり、総面積の約88%を占めています。（出典：以下の※参照）このうちの人工林の多くが間伐期にあり、充実した森林資源がある一方、必要な間伐がなされていないエリアも多くあります。森林所有者の高齢化や地域外への転居などにより境界が不明確なエリアが増えていることや、間伐作業が入りにくい地形、間伐をしても経済的に成り立たない条件の森林など様々な課題が理由として挙げられ、手が入らずに荒れていく森林も広がっている状況があります。

※南丹市の森林や林業の現状、今後の取り組み方針等は「南丹市森林・林業・木材産業振興ビジョン2024-2033」にまとめられています。

2023年2月に当団体と地域有志の実行委員会が南丹市で開催した「農×地域シンポジウム未来を耕す～これからの農と地域を考える～」での「森林と農村：里山を守れるか?!」という話し合いの場をきっかけに、当団体は森林や里山の維持に関わることができる幅の広い担い手の育成を目指して取り組みを始めました。

昨年2024年度には、「南丹の森を知る」として、先進的な取り組み事例である「自然配植」について、地域の林業をよく知るための林業施業地視察と小規模林業について、そして、森林を環境教育の場として活用する「動物の痕跡探し」体験の3回の講座を実施しました。

今年度は昨年度の学びを基に、今後実践していく知識と技術を得るべく「地域性苗木づくりと自然配植の植栽技術」と「多様な林業とチェーンソースキル」の2つの連続講座を実施しました。

講座の構成と各回の概要

「南丹の森を学ぶ」で開催した2つの連続講座は、「森づくり」と「森林資源の整備と活用」の2つの観点から基礎的な学びができるよう、すでに森の活動に関わっている人と今後関わりたい人との両方を対象に内容を構成しました。以下に2つの連続講座の概要を、また、次ページより、各回の実施内容のまとめと振り返りおよびアンケートにていただいたご参加の方からの声をまとめます。

連続講座①地域性苗木づくりと 自然配植の植栽技術

第1回 地域性苗木づくりを学ぶ 8/31 (日)

講師：鹿取 悦子 さん 芦生タカラの森代表
芦生タカラの森による苗木生産現場の視察、苗木づくり体験、芦生の森についての座学
開催地：南丹市美山町芦生

第2回 森の見方と種取りを学ぶ 9/7 (日)

講師：高田 研一 さん 自然配植技術協会会長
地域性苗木づくり基礎の座学、種取り実践
開催地：南丹市園部町天引

第3回 自然配植を学ぶ 10/19 (日)

講師：高田 研一 さん 自然配植技術協会会長
自然配植基礎の座学、森の見立て体験
開催地：南丹市園部町天引および埴生

第4回 パッチディフェンスを学ぶ 11/2 (日)

講師：海田 明裕 さん 野生動物保護管理事務所
シカの行動とパッチディフェンス基礎の座学、パッチディフェンス設置実践
開催地：南丹市園部町天引



連続講座②多様な林業と チェーンソー基礎スキル

第1回チェーンソー基礎①と多様な林業①9/20 (土)

講師：古屋 昭 さん 林災防京都府支部技能師範
堀田 暢 さん 日吉町森林組合 森林施業プランナー
チェーンソーの安全規則・構造・整備基礎の座学とメンテナンス実技、森林施業地の視察
開催地：南丹市日吉町胡麻

第2回チェーンソー基礎②と多様な林業②10/12 (日)

講師：芦田 拓弘 さん 株式会社あしだ取締役
用澤 修 さん 森林環境ネットワーク代表
林業事業体とJクレジットの取り組みについての座学、チェーンソーと斧の実技
開催地：南丹市八木町新庄

第3回チェーンソー基礎③ 10/25 (土)

講師：仲上 尚志さん、堀田 暢さん
日吉町森林組合 森林プランナー
チェーンソーでの伐倒作業と運びだし実践、チェーンソー実技、グリーンウッドワーク体験
開催地：南丹市日吉町四ツ谷

第4回多様な林業③と森林ビジョンを学ぶ11/8 (土)

講師：清水 易 さん 南丹市農林商工部農山村振興課
松尾 健司 さん 京都府南丹広域振興局森づくり振興課
林 益郎 自伐型林業家
小規模林業施業地視察、林業制作と南丹市森林ビジョンについての座学、ディスカッション
開催地：南丹市園部町天引および兵庫県丹波篠山市



連続講座①地域性苗木づくりと自然配植の植栽技術

第1回 地域性苗木づくりを学ぶ

講師 鹿取 悦子 さん

芦生タカラの森 代表

日時 8月31日(日)

会場 芦生山の家、芦生の森
(南丹市美山町芦生)

参加者
14名

プログラム内容

午前：座学／タカラの森の活動紹介（芦生の森の環境について、植栽活動、地域性苗木の基礎、他）

視察／パッチディフェンス視察

午後：視察／地域性苗木育成圃場

実技／地域性苗木の種まき、苗木植え替え

振り返りとまとめ

午前は「芦生タカラの森」が実施している、森への植栽活動の様子や、地域性苗木づくりについてのお話を伺い、実際にパッチディフェンスという小規模防護柵の中にトチノキを植栽している森の見学をさせて頂いた。パッチディフェンスの外側はシカの採食影響により下層植生の劣化、多様性の減少が続く状況であるが、内側では植栽したトチノキ以外にも鳥類が運んできた実生稚樹が生育する等、多種類の広葉樹が自然に回復している様子が見えた。

午後からは苗木を育成されておられる圃場を見学し、苗木の育成管理を学んだ。圃場では講師の鹿取さんが採集し、タネから育てた落葉紅葉樹のアオハダの実生の鉢上げ作業を体験させて頂いた。

種子は地域の森から採集するので、毎年とれる種類も数にも変動があり、芽が出るものや数年休眠に入るものなど種子毎の特性も多様である。一般的に広く流通する植木生産との違いが見えた。苗木の由来判別のための記録管理など、地域性苗木生産における配慮や工夫を学ぶことができた。

参加者の中にはすでに地域性苗木を生産されている方からこれから取り組もうとする山主、および林業・造園関係者をはじめ森林再生に関わる地域の方も見え、地域性苗木の管理の質問や、苗木の将来性についての積極的な意見交換があった。

生物多様性の衰退が目に見える京都の森では、地域の遺伝子資源を保全するという意味は大きく、森林回復のためにも地域性苗木の生産に取り組む必要性を感じる1日であった。



ご参加のみなさんから

Q.本日の1番の学びは何ですか？

- ・ 芦生の森の時代による変化（下草が無くなる様子）等も、リアルに感じる事が出来ました。また、それ以上に講師の鹿取さんが様々な事に取り組まれてきたお話が、とても興味深かったです。
- ・ シカによる食害のすさまじさ。元の森に戻していくためには、パッチディフェンスのような工夫が必要なんだと思い知らされました。
- ・ どこにどんな木を植えるか、その木の性質を知り、地形・土質・気候・歴史etc.考慮が必要ということ。
- ・ 地域性苗木とパッチディフェンスの関係がはじめてわかりました。
- ・ パッチディフェンスするだけでも実生を守る効果があるんだと感じました。
- ・ パッチディフェンス内と外の差がすごかった。苗畑の実際の様子を見て自分の現場だったらどうするか想像がふくらみました。実際に種とりして、秋にまいてみようと思います。



連続講座①地域性苗木づくりと自然配植の植栽技術

第2回 森の見方と種取りを学ぶ

講師 高田 研一 さん

自然配植技術協会 会長

日時 9月7日（日）

会場 天引村倶楽部

（南丹市園部町天引）

参加者
22名

プログラム内容

午前：座学／地域性苗木生産の重要性と生産体制の課題について

午後：視察／広葉樹の樹種ごとの特性
実技／種子採種

振り返りとまとめ

午前の座学では全国的にも遺伝子資源に配慮した地域性苗木生産の担い手が不足している事、森林回復を考えるには林業専門性だけの視点では難しい事などを学んだ。何を優先して保全するのかという地域の森林ごとの在り方や目標設定についても考えさせられる講義となり、参加者は刺激を受けた様子だった。

午後は許可を頂いた林道にて、種取りの方法と種子の熟度による選別や採取時期の選定について学んだ。加えて、樹木の生育環境を観察し、樹種毎の特性を知ることの重要性を学んだ。

例えば根系特性を活かした樹種の組み合わせが斜面防災機能を発揮する事、樹木の生育形態を知る事は植栽時における樹種の組み合わせを検討し、将来の森林形成を計画的に実行する事が可能になる。観察と知見蓄積が地域性苗木を使用して森林を回復させるために重要であることや、地域性苗木を生産しながら施工者へ提案できる力を身につける事で地域の森林再生をより良いものにできる事も学ぶことができた。



ご参加のみなさんから

Q.本日の1番の学びは何ですか？

- ・苗木づくりの前に、その土地の歴史と地域の理解が必要。自分一人では無理があるので、苗木づくりは1人1人でもネットワーク作りも必要があること。
- ・真の豊かな森づくりができる人の少なさを知った。
- ・国や自治体のやっていることと現場とのズレ。現状（山の様子）が大変なことになっていること。
- ・苗木による持った性質によって、育つ育たない、適地不適地の違いがあること。
- ・種が見つけれられない!!コツがあるなと思った。
- ・同種でも複数の母体から種とりする必要性
- ・木の種を意識して見る事。タイミング（熟し具合）の見きわめ。
- ・樹種によって種のできる時期、とる適期が違おうと思うので、できれば一つ一つおしえてもらいたい。
- ・自分が植物の知識がいかにないかを痛感した。
- ・種とりする木を見つける事がまず難しい。見つけやすい場所を用意して下さっていたのに、人目には分からなかった。ただ、全く分からない中で、周りの方から、樹種の名前を教えてもらうのが、世界が広がっていくようで面白かった。大勢で歩くことが一番の勉強になりました。
- ・5種の種を採り、その木がどんな場所に生えていたかを答えるという実習が、新たな力をきたえる訓練になってよかったです。

連続講座①地域性苗木づくりと自然配植の植栽技術

第3回 自然配植を学ぶ

講師 高田 研一 さん

自然配植技術協会 会長

日時 10月19日（日）

会場 天引村倶楽部

（南丹市園部町天引）

参加者
16名



プログラム内容

午前：座学／自然配植の基礎技術

午後：視察・実技／地形と植生の歴史との関係、
基盤や土壌の判定について

振り返りとまとめ

午前の座学では、自然配植技術を考えるための基礎知識を学び、午後からの実地研修では地域の森と山城跡に登り、地形と植生の歴史関係、基盤や土壌の判定方法を学んだ。全体を通して、現在の森林から将来の地域の森づくりに何をを目指すかを含めてを考える講座となった。

座学の基礎は、浄菌と土壌バクテリアのコントロールが樹木の生育を左右すること、針葉樹と広葉樹の生育戦略の違い、自然配植という植栽の考え方などを中心に教えて頂いた。

実地研修は、地形が作る山の岩盤の形から粘土層有無を判断する方法についてや、人為的な森林活用の履歴を読み解き、地形や古来構造物から地質や水脈有無の判定について、参加者の目の前の風景と照らし合わせながら教えて頂いた。

実地の森林環境は参加者が関わっている森林と環境は違えど、森をどうするのか、森の活用や未来の在り方について考える機会になったのではないかと感じられた。



ご参加のみなさんから

Q.本日の1番の学びは何ですか？

- ・土のこと、浄菌についてが一番の学び
- ・「浄菌」という考え方、バクテリアとの関連について。日本とヨーロッパの土壌の違いがあるのに、学問上の方法論をそのまま使っている点
- ・各樹種の特長を細かく教えていただいたこと。イロハモミジ、ヤマモミジの特長を詳しく教えてもらったこと。
- ・森の中で苗木を育てる事のむずかしさと同時に興味も倍になった。
- ・樹種ごとの適性を知れた事。
- ・山を見る目を養っていく事がとても大切だと感じました。前は種さがしでしたが、今回は山全体を見ながら（地形、地質、歴史）細かい部分に気づいていく（植生や野生動物、細かい地形）ことで、山をどうしていくかビジョンが見えてくるのだなと、先生のお話を通して思いました。鳥の目、虫の目、シカの目。
- ・登山道を足元だけみていたのがダメということがわかりました。現場でみてさわってが大事と改めてわかりました。
- ・地形と地質、水分の有無で植生が違う点。
- ・全て相対的だということがわかりました。水の流れと森づくりについて学ぶ機会があればと思います。
- ・歴史的な土地利用も考える必要がある点。



連続講座①地域性苗木づくりと自然配植の植栽技術

第4回 パッチディフェンスを学ぶ

講師 海田 明裕 さん
野生動物保護管理事務所

日時 11月2日（日）

会場 天引村倶楽部
（南丹市園部町天引）

参加者
15名

プログラム内容

午前：座学／パッチディフェンス設置の基礎、シカの生態など

午後：実技／パッチディフェンス設置

振り返りとまとめ

連続講座①の最終回では、野生動物保護管理事務所の海田主幹研究員から1日をかけてシカの生態や行動について、また防護柵の役割や機能などを含めたパッチディフェンスの基礎知識についての座学と、実際にパッチディフェンスを設置する実技を通して、設置の流れ、注意点などについて具体的に学ぶことができた。

これまでの講座で学んだ知識を使い、苗木を生産し植栽する場合、ニホンジカの高密度地域ではシカの食害から苗木を防護する技術が必須要素である。自然配植技術に用いられるパッチディフェンスは、地域性苗木の防護と森林回復力を高める基盤を作る事ができる技術である。

座学の際にはゾーンディフェンスとの違いや、設置の目的、実行できるメンテナンス頻度によって、また獣道をどのように避けるかによっても囲む範囲や場所を検討する必要があるなど、実際に設置する際に考慮すべき点などを細かく聞くことができた。

午後の実技では、資材と設置手順を講師と一緒に確認しながら、実物を全員で建て、防護資材の素材の特性や分割方法、設置の実際について習得した。またメンテナンスの重要性や方法、シカの侵入を防ぐコツ、応用としてイノシシへの対策も学んだ。

全講座を通して様々な参加者が相互に繋がり、森林を考える機会となったと感じる。



ご参加のみなさんから

Q.本日の1番の学びは何ですか？

・パッチディフェンスが、ただシカの食害から苗木を守るというだけでなく、眠っている種子が芽吹いたり、飛んできた種が芽を出すオアシスのような役割をになっていると聞いて、費用対効果以上のものを感じました。今回も参加者の方から色々なお話を聞けて刺激になりました。

・シカは何でも食べているという真実。先生の持論で、シカは山を草原化させたいのではないかという観点。これには私もうなりました。

・獣道を塞いでしまうことで、ネットを破られるリスクが上がる事を知れて良かったです。地元でもなぜか毎回破られる防護柵があるのは、獣道を塞いでしまっていたせいだとわかりました。あきらめさせるような囲い方やワナの設置などやり方を変えてみようと思います。

・けものみちを考えるのは確かにその通りだと思います。どうしても守りたいものを囲むことばかり考えてしまいそうです。

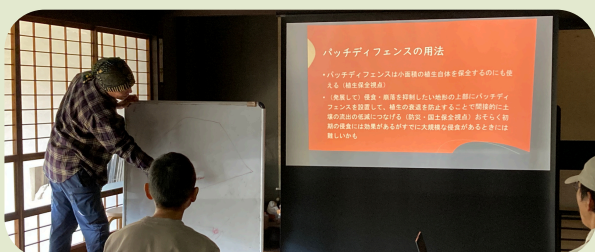
・設置を一からできたのはたいへんよかった。以前、鉄筋を利用して柵を作ったときよりは機能的であった。

・材料の特徴が知れて良かった。ネットの張り方など細かい点のコツ。

・余白を見越して、中に置く場合は位置を考えること。

・打ち込み作業が力が要るので、何本もすると大変になりますね。

・設置場所の下準備が大変だったと思いました。そのおかげでわかりやすい実習でした。



連続講座②多様な林業とチェーンソースキル

第1回 チェーンソー基礎①と 多様な林業①

参加者
7名

講師 古屋 昭 さん:林災防京都府支部技能師範
藤井 文夫 さん: 林災防京都支部講師
堀田 暢さん: 日吉町森林組合森林施業プ
ランナー

日時 9月20日(土)

会場 日吉町胡麻基幹集落センター
(南丹市日吉町胡麻)

プログラム内容

午前:座学/伐木作業に関する基礎と安全
実技/チェーンソーのメンテナンス基礎
午後:座学/森林組合による林業について
視察/森林組合施業地視察

振り返りとまとめ

山林整備や林業に携わるうえで必ず必要となる安全作業をするための知識を専門的に教えておられる講師の方に来ていただき、講座を実施した。林業の中でも伐木造材作業は危険を伴う作業であり、最新の注意をして行ってほしいという話から始まり、かかり木処理や伐倒作業時の立ち入り禁止区域の考え方など映像も交えながらの講義には、参加者の皆さんも真剣に聞き入っていた。

実技では、作業に必要なってくる装備や道具の説明を実際に触れて体験しながら、構造・メンテナンスを詳しく知ることができた。チェーンソーの目立てなどは削る角度が重要であり、参加者一人ずつ実際にヤスリをチェーンにあてて目立てを体験していただくことができた。

森林組合の施業地視察では、日吉町森林組合が最近間伐をされた山に実際に入り、作業道を歩きながら立木の説明を聞いた。針葉樹の中に広葉樹が自然生えしてきている植生を残していることや、動物の痕跡など、参加者の疑問に答えてもらいながら見る事ができた。午前中に学んだ伐木や作業の際の道のつけ方に関しても、実際に切られた切り株を見ながら伐倒方向や材の出し方、使用した機械などについて詳細の説明を聞くことができた。

ゾーニングも考えながら今後の森づくりをすることの大事さや、子どもたちにもっと山に入って体験してもらう活動にも取り組んでいることなど、山のもつ多面的機能を知ってもらう良い機会となった。施業地を見ていただくことで林業の役割や作業の難しさも知ってもらうことができた。



ご参加のみなさんから

Q.チェーンソーの安全な使用、メンテナンスについて不安なことはありますか。

・こわいイメージがずっとあったが、移住先でいつまでも使用できません、とも言えないと思い、まず概要でも知ろうと思ったが、思ったより難しい扱いではないと感じた。危険な機械であるのは確かに実感した。

・危険な切り方(玉切りも含め)を知りたい。
・数多く経験すること。単独作業しないよう仲間や家族で作業することが大事と思う。

Q.森林組合の座学および施業地視察に関して、どのような学びがありましたか。

・森林組合の仕事内容がよく分かりました。森林道の整備の大切さと伐木の難しさ、調査があるということ、その大切さが分かった気がします。

・山の存在について関心が持てた。
・林業のイメージは最初(最近)のイメージが良くなかったのですが、そのような人ばかりではない事に安心しました。

・将来の山の姿も考えた施業をしつつ、コスト面での折り合いもつけていくという、難しいことをやっておられるなと思いました。

・施業地は明るくて気持ちが良い印象だったが、やはり生えている樹種の少なさが気になった。切った後に植林をしないのが基本というのを初めて知った。経済林としては当然な気もする。

・効率、集約化、利益化が実現できるように努力していることがよく分かった。作業道を荒れることなく作り、保守するコツを知ることができた。



連続講座②多様な林業とチェーンソースキル

第2回チェーンソー基礎②と多様な林業②

講師 芦田 拓弘 さん

株式会社あしだ 取締役

用澤 修 さん

森林環境ネットワーク 代表

日時 10月12日（日）

会場 新庄郷育館

（南丹市八木町新庄）

プログラム内容

午前：座学／林業事業体による環境への取り組み
（カーボンニュートラル、Ecopayなど）

午後：実技／チェーンソーを使った玉切り、伐倒
見学、斧での薪割り体験

参加者
3名



振り返りとまとめ

林業事業体の後継者として地元南丹市に帰ってきた株式会社あしだの芦田拓弘さんから、「林業をもっと知ってもらうには」の観点でのお話をいただいた。木材の流通システムや森林の多面的機能である水源涵養、土壌保全、生物多様性保全、地球温暖化防止、そして二酸化炭素削減での森林の役割等について説明を頂くとともに、これらが見える化することで林業への関心を高めていく必要性と取り組みについてお話いただいた。芦田さんは、森の中でのキャンプや、植林・木工体験など、親子で木に触れることで林業や森林の大切さを学ぶことができるきっかけの場を提供している。また、買い物で使えるEcopay(デジタル通貨)を独自で開発し、森林保全に貢献している意識を醸成していく普及活動にも力をいれている。参加者の方からもEcopayへの関心も高く、広まってほしいとの声が多く聞かれた。

午後は、近隣集落の裏手にある森で、間伐体験を実施。チェーンソーの基礎的な使い方から学び、伐倒の手順を一通り体験しながら、注意点や自分の癖などを知ることにより安全に伐倒できることを学ぶことができた。ヘルメットや防具類などを使うこともはじめての方が多く、初回講座でも学んだ安全対策の確認などもしながらの活動となった。伐倒後の木を玉切りする体験や、薪割りの体験などを通して、森林資源の循環利用について学んでもらうことができた。



ご参加のみなさんから

Q.クレジットや林業事業体の仕組みについてどのような学びがありましたか？

・「間伐をするとクレジットが増える」（反対に減ると思っていた）という考えに初めて触れ、Jクレジット全体を知ることができた。今まではそこまで知識を持っていなかった。芦田さんのお話はもっと広めるべきだと思った。

・今までの林業に新たなシステムが入る事で、ここまで未来をイメージできるようになる事が興味深かった。林業全体の、一般消費者へのハードルが下がればいいなと感じた。

・Jクレジットについて、何の知識の無いまま今日初めて話をききました。内容はとても面白くて興味深いものでした！EcoPayは是非、いや絶対広めるべきものです。林業に関するセミナーは、現状お先まっ暗な話が多いですが、今日は先が明るい話がきけました。

Q.チェーンソー実技や斧での薪割り体験はいかがでしたか。

・分かっているようで分かってなかった事が学べたと思う。継続的にロープ、チェーンソーを活用して慣れていきたい。

・今日初めてチェーンソーを扱いました。チェーンソーは経験をつめば何とかなりそうな気がしました。斧はコントロールがむずかしいですね…

・安全管理はしっかりと教えていただけたと思います。

・倒し方、割り方も大事だが、薪以外の活用方法を学びたい。

・身体で覚えることがより大事な分野だと思いました。

連続講座②多様な林業とチェーンソースキル

第3回チェーンソー基礎③

講師 仲上 尚志 さん、堀田 暢 さん
日吉町森林組合 森林プランナー

日時 10月25日（土）

会場 四ツ谷の山
（南丹市日吉町四ツ谷）

プログラム内容

午前：視察／森林組合作業員による伐倒・搬出・運搬作業の見学

午後：実技／チェーンソーでの玉切り、ロープワーク、グリーンウッドワーク体験
視察／加工用木材倉庫見学

振り返りとまとめ

3回目最終回となるチェーンソー基礎の講座では、森林組合の作業員の方による間伐と搬出の作業方法を丁寧に説明いただきながら見ていただいた。安全確保、伐倒方向の確認、ロープを使った伐倒方法など、危険予知をしながら動作を確認していく基本的な手順を詳細に見学できた。また、良い材にするための切り口の位置、木材の用途を考えた玉切り、搬出にそなえて安全な枝払いをしていくこと、また実際に林内作業車を使って、積み込み・運搬・積み下ろしまでの木材搬出の一連の作業の流れを体験することができた。木材流通の最初の作業について全体を知ることができ、今後の活動の参考になった。

午後は、動力（エンジン式）および電動式の2種類のチェーンソーを使って、搬出したヒノキ材を使った玉切り講習を実施した。初心者でも安全に作業できるよう、また種類の違うチェーンソーの使用感、重さ、使いやすさなどの違いや、どちらが自分にあっているかなども経験をしてもらうことができた。また、伐倒時に必要なロープワーク（もやい結び等）をしたり、グリーンウッドワークで生木の削りを体験してもらい、色えんぴつを作ってもらうなど、森を活用した楽しみを通して木材の活用、循環を考えてもらうきっかけを持つことができた。

最後には、今回の講習の会場となった山の持ち主である木工作家の方の加工用木材置き場を見学させていただいた。木材市場での材の買い付けについてや、木を数年寝かせて少しずつ自然乾燥することで、木の曲がりや割れを抑えていることなど、伐倒した後の木材がどのように使われていくのかの一端を知ることができた。

参加者
7名



ご参加のみなさんから

Q.チェーンソー実技に関して該当するものにQをつけてください。（複数回答可）

- 1.チェーンソーの基本操作（エンジンかけ、持ち方、刃の入れ方など）についてできるようになった：4名
- 2.チェーンソーの基本操作（同上）について、手順や注意点を把握できた：5名
- 3.チェーンソー使用後のメンテナンスや確認項目について把握することができた：2名
- 4.実践にむけて今後、自信がない点やより練習が必要な点を把握することができた：2名
- 5.実践にむけて、不安に感じる点などを把握することができた：4名

Q.チェーンソーの使用に関して習得できた、自信がついた、練習が必要と思われる点についてお聞かせください。

- ・比較ができて良かった。
- ・安定した姿勢で扱うことの大事さ。玉切りも奥が深い。
- ・エンジン式とバッテリー式の違いがよくわかった。
- ・安定して操作をするための姿勢を学んだ。
- ・チェーンソーの使い方を知りたいと思っていた。このような機会を得たことを嬉しく思います。少し自信がもてたのでよかったと思う。



連続講座②多様な林業とチェーンソーススキル

第4回多様な林業③と森林ビジョンを学ぶ

講師 清水 易 さん

南丹市農林商工部農山村振興課

松尾 健司 さん

京都府南丹広域振興局森づくり振興課

林 益郎 自伐型林業家

日時 11月8日（土）

会場 天引村倶楽部

（南丹市園部町天引）

参加者
13名

プログラム内容

午前：座学／小規模林業取り組み事例紹介

視察／小規模林業の施業地視察

午後：座学／京都府の林業政策について、「南丹市森林・林業・木材産業振興ビジョン」について、ディスカッション

振り返りとまとめ

連続講座②の最終回では、小規模林業についてと、京都府および南丹市での森林にかかる決まりや、森づくりのビジョンについて学びをもった。

小規模林業の取り組み事例では、兵庫県丹波篠山市で実施している自伐型林業のモデル林づくりについて、どのように取り組みを立ち上げ、行政との連携や施業の開始にいたるまでの説明をお聞きした。視察では、自伐型林業で作業道を作っている山を訪問し、伐倒後の搬出から、木材市場に持っていき、買い手がつくまでの流れの中で、少人数の作業で、どのように伐倒したら出材しやすいか、高く売るためにどう切るか、などを考慮した一つ一つの作業について説明ををいただいた。チェーンソーを使って伐倒する作業時間も直に儲けに反映されることなど小規模で成り立たせるための大変さも含め、作業途中の現場を实际に見ることで実感できたことが多くあった。



午後は京都府広域振興局から日本の林業の成り立ち、林業法について、伐採造林届や伐採に関係する諸々の届け出と管轄機関について、安全な施業のためのに多くある制度の概要を説明いただいた。

南丹市農山村振興課の清水さんからは、「南丹



市森林・林業・木材産業振興ビジョン」ができる過程や、実施開始までの取り組みを説明いただきました。南丹市全体の森林の現状把握に用いた航空レーザー計測や、赤色立体地図についてなど、森林資源を活かす林業行政について理解を深めることができた。

ディスカッションでは「森の現状の課題」を出し合い、山主の無関心や、経済林としてもネガティブ思考になっていることが問題ではないかという指摘が多く、山や森に対する思いを変えていくこと、現状を把握したうえで山を活用していく取り組みも必要だということなどを話し合った。2050年のゼロカーボン目標は“森に帰る”きっかけになるとの意見もあり、南丹市の豊かな森林資源を未来に向けて活用していこう、という強い思いも共有することができた。

今後、森に関わる人を増やすための取り組みの提案として、若い世代への森や山に関する教育や体験の必要性、府内産材のブランド化、小規模林業支援策の必要性に加え、SNSや林チューバー、Ecopayなどを活用して、無関心層へのアプローチをしていくことが大事ではないか、という意見もあり、活発なディスカッションとなった。



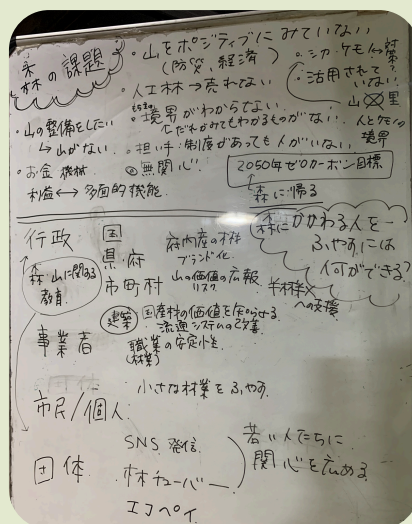
Q.小規模林業について1番の学びは何ですか？

- ## Q.ディスカッションへのご意見、ご感想

12



- ・令和6年から、森林環境税というのを徴収していることを学べたことが、一番の学びだった。インスタなどで協力を募りたい。
- ・航空レーザー計測により、必要な情報をほとんど得ることができ、どこから手入れするべきかなどの詳しい情報もえられ、森林を良くしていくためのたくさんの工夫がされていることを学びました。
- ・2050年、森に帰る（還る）
- ・森林率が高い南丹市では、森林担当の職員をもっと増やすべき。
- ・令和の航空調査で「見える化」がかなりできたこと。南丹市の森林を考える会やビジョン公表前のパブコメ募集については、関わってみたいかった。
- ・林業の手間の割に木材が安すぎる（外産材がもっと安すぎる）。流通の方法に問題が多い気がする。
- ・ビジョン実現に向けて、市民をできるだけ巻きこみながらやっていただきたい。



参加者アンケート集計

各回の講座アンケートでの共通質問への回答を以下にまとめます。

Q. この企画についてどこで知りましたか。

(複数回答可)

- この企画のチラシ 【2】
- つむぎホームページ 【5】
- SNS上の情報 (Facebookなど) 【5】
- 京都新聞記事 【1】
- 移住者向け情報メール (南丹市) 【7】
- 移住関連情報サイト「今日と明日」 (京都府) 【0】
- 知人からの紹介 【20】

その他 【4】

- ・主催者からの紹介
- ・前年参加
- ・園部駅設置のチラシ

Q. 森/山林に関わることで、学びたい知識、習得したいスキルなどがあれば教えてください。(自由記載)

連続講座①

- ・樹種判別スキル※、樹種の特長・特性※、
- ・樹種の選別、生育基盤について
- ・現場での見立て (樹種、場所、うえ方)
- ・山林の再生のためにはどのようなバランスで植えていけばよいのか。
- ・地形の見分け方※
- ・山の手入れ、水脈のみつけれ方、水源の管理。
- ・木を倒した後、どういう再生の方法があるのか。
- ・苗づくりから森づくりまで、その後の管理、利用
- ・森と田畑 (里山) との関係が南丹 (美山) ではどのように理解され、子供たちに伝えられているのか。
- ・適木を使った防災、斜面防災のための森づくり。
- ・耕作放棄地をうまく利用できないか。

連続講座②

- ・伐木から製材所までの流れや、自己所有の山林の日頃の管理など。建築に関わるところまでを学びたい。
- ・山の境界がわからない時は、誰に聞けばいいのか
- ・新5S、新3K、これは自分の仕事にも生かしたい。全ての職業にひびきますよ！再投資する山と自然にかけたい山との判別、区域分けがわかれば…。
- ・道のつけ方、自伐型林業の道づくり。
- ・“管理”や“手入れ”ではなく、“”利活用する”ポジティブな意識になれる方法はないか。地元の方の意識を変換できないか。森や山林だけでなく農地に対しても。
- ・皆伐後放棄されている山林が一部あるので、広葉樹林化する方法を学んでみたい。

※は同じ回答が複数あったもの

Q. 今後ご自身で実施しようと考えられている取り組みに関してどのようなサポートや情報があるとよいですか。 (自由記載)

連続講座①

- ・先進地である三重県大台町や滋賀県朽木への視察ツアー※
- ・地域性苗木づくりのネットワーク、情報交換共有プラットフォーム※、生産販売の協力、販路情報、生産者情報
- ・地域性苗木の必要性。地域性苗木という概念を気軽に知れる媒体 (冊子とかHP)、樹種情報
- ・少しでもはなれることで植生が変わってしまうのかどうかというところ。
- ・種とりのフィールドワーク※
- ・森林 (個人所有) の管理について基礎
- ・崩壊跡地の再生をどう植えていくのかなど、現場に立って、実際の現場でのリアルなレクチャー
- ・南丹市近郊でメインとなる苗木センターの開設。
- ・地域性が同じところ同士の種 (又は苗木) の交換会の実施。データバンクの閲覧させてもらうこと (木の種類の特定とか…)。
- ・種取りの際の注意点 (土地所有の問題など) や苗木の確保などの情報。
- ・どういう苗 (樹種) をつくったらよいか、培土や日当たり、水やりなどの環境面の指導。
- ・どのような種をどの時期にどのくらい取って育てるのかについてのもっと基本的な座学。
- ・ (地域性苗木づくりと自然配植の) 研修会の情報。

連続講座②

- ・ (伐採届など) オンラインで手続きの説明や情報収集がやりやすくなること。
- ・料金の問題があるが、 (林業の) 法律に強いサポート。
- ・ (山に関わる申請について) 窓口が、市なのか府なのか、がわかりにくい。困ったときに誰に言えばよいのか、相談窓口がほしい。何の書類をどこに出すかのチェックリスト。



終わりに

まだ夏の暑さの厳しい8月の終わりから、11月にかけて、各4回ずつ、合計8回をかけて森づくりにむけた学びとしての「地域性苗木づくりと自然配植の植栽技術」と、森林整備と利活用にむけた学びとしての「多様な林業とチェーンソー基礎スキル」の2種類の連続講座を無事に開催することができました。福井県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、遠くは愛知県から、また地元である南丹市からも多くの方にご参加いただき、延べ97名の方と学びの場を共有することができました。

「南丹の森で学ぶ」は、苗木づくりやその管理、山の整備などを自分たちの手でできるようになる、最初の一步を学ぶ場として設定しました。今回の講座では、山や森に関心のある個人の方々やすでに活動している方、地域の方、また林業に関わっている方にも含め、幅広い方にお集まりいただくことができ、これからの関りや協働の可能性についても考えることができました。

昨年実施した「南丹の森を知る」でも同様に感じたことは、森や山への関心が低いことが大きな課題だといわれている一方、森に関わりたいという思いを持つ人、関わる方法を模索している人、スキルを身につけようとしている人も同時に多くいるということです。

ご参加いただいた方から各回のアンケートに寄せられた声の中には、学びや関心を共有できる人と出会えたことへの喜びや、今後も情報交換やサポートし合うためのネットワーク、また協働できるプラットフォームが必要である、という意見が多くみられ、今後の取り組みへのアイディアを頂きました。

地域性苗木づくりや自然配植の技術、またチェーンソーなどの林業機材を使う森林整備などは、専門的な知識や経験の積み重ねを要する分野です。環境や生態系への基本的な配慮や理解、また安全とリスク管理などを考慮すると、誰もが取り組めるものではないかもしれませんが、各分野の専門家や地域の実践者の方に教えていただくことを前提として、現在の森や山林の状況をどうにかよくしていきたい、と志をもつ方たちが関わっていくことができる場をつくり、多様な関わり方をする幅の広い担い手を増やしていくことは、現在の地方農村や里山の環境が直面している課題に取り組む際には必須のことだと考えます。

今回の講座でチェーンソーや斧を始めて使った、異なる樹種の役割について初めて知った、など新たな学びやスキルを得ると同時に、これから取り組んでいくにあたって、次に必要な学びは何かを把握された方も多くおられたと思います。ご参加いただいた皆様から頂いた声をもとに、また今回の講座の企画運営を通して得られた経験や課題を取りいれて、今後も里山の森づくりの担い手育成の取り組みを継続していきたいと思います。

最後になりましたが、本講座にて貴重な知識やご経験を惜しみなく提供いただいた講師の皆様、講座の開催の場を快く提供して下さった南丹市各地の地域の皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

特定非営利活動法人つむぎ
代表理事 ドワイヤーはづき

関係者の紹介

運営にご協力いただいた皆さま

坂本 亮 さん、伊藤 大地 さん／
京都府南丹広域振興局森づくり振興課
奥村 育子 さん／天引村倶楽部
秀野 祐介 さん／家具と陶 やがて
鈴木 優甫 さん／ PaLa空間工房

特定非営利活動法人つむぎ

榎本 拓司／連続講座①「地域性苗木づくりと自然配植の植栽技術」担当
林 益郎／連続講座②「多様な林業とチェーンソー基礎スキル」担当
ドワイヤー はづき／事務局 牛尾 直美／事務局サポート



里山の森づくり担い手育成事業2025

南丹の森で学ぶ

子どもたちが森で活動をする場を作りたい！

森づくりをしたいけど、何をどこに植える？

山の整備をしたいけど、どうやってスキルを身につける？

山の仕事をナリワイにできるかなあ・・・

「南丹の森で学ぶ」は、苗木づくりやその管理、山の整備などを自分たちの手でできるようになる、最初の一步を学ぶ場です。実践者から、専門家から、南丹の森から、多様なスキルと知識を学び、どんな関わり方ができるか、探ってみましょう。

連続講座①

地域性苗木づくりと自然配植の植栽技術

地域の生態系に根差した多様な動植物が豊かに息づく森づくりにむけて、「地域性苗木づくり」と「自然配植」の基礎を学びます。

参加費 4回連続 8,000円／単回 2,500円

第1回	地域性苗木づくりを学ぶ	8/31 (日)
第2回	森の見方と種取りを学ぶ	9/ 7 (日)
第3回	自然配植を学ぶ	10/19 (日)
第4回	パッチディフェンスを学ぶ	11/ 2 (日)

詳細は裏面へ！

連続講座②

多様な林業とチェーンソー基礎スキル

森や山でがっちり仕事をする林業にも、いろいろな形があります。多様な在り方を実践者に学びながら、森作業ツールの1つ、チェーンソーの基礎にトライします。

参加費 4回連続 10,000円／単回 3,000円

第1回	チェーンソー基礎①と多様な林業①	9/20 (土)
第2回	チェーンソー基礎②と多様な林業②	10/12 (日)
第3回	チェーンソー基礎③	10/25 (土)
第4回	多様な林業③と森林ビジョンを学ぶ	11/ 8 (土)

主催：特定非営利活動法人つむぎ



連続講座①地域性苗木づくりと自然配植の植栽技術

第1回 地域性苗木づくりを学ぶ (座学+視察) 8/31 (日)

講師：鹿取 悦子 さん 芦生タカラの森代表
美山町で芦生タカラの森が手掛ける苗木生産現場を訪ね、実践から学びます。 集合場所：芦生山の家 (0771-72-0290) /美山町

※芦生山の家は前泊可能です。直接お問合せください。HP→

第2回 森の見方と種取りを学ぶ (視察+実技) 9/7 (日)

講師：高田 研一 さん 自然配植技術協会会長
地域に適した苗木づくりに必須の種取りを、森を歩きながら実践します。 集合場所：天引村倶楽部/園部町

第3回 自然配植を学ぶ (座学+視察) 10/19 (日)

講師：高田 研一 さん 自然配植技術協会会長
自然配植の基礎を学び、実際に森での見立てを体験します。 集合場所：天引村倶楽部/園部町

第4回 パッチディフェンスを学ぶ (座学+実技) 11/2 (日)

講師：海田 明裕 さん 野生動物保護管理事務所
シカの行動を学び、自然の回復や植栽区画をシカから守るためのパッチディフェンスの基礎から設置作業までを実践します。 集合場所：天引村倶楽部/園部町

※地域性苗木づくりでは、その土地や気候に合った多種多様な苗木をその土地に育つ木々から種をいただいて育てます。

※自然配植は、その地域の生態系に適した地域性苗木を、自然の森に学んだ方法で植栽し、持続可能な森づくりを目指すものです。

各回
15名
程度



連続講座①の全回共通事項

- 9時集合、16時ごろ終了予定
- 参加費には、講座で使う道具、資料、保険代が含まれます。
- 山の中で作業できる服装、昼食、飲み物、筆記用具は各自ご準備ください。
- 最寄り駅（JR山陰線吉富/園部/日吉駅）からの送迎が必要な場合はご相談ください。

お申込み / お問い合わせ



←お申込みはこちらのGoogleフォームにご記入いただくか、以下のメールにお送りください。

特定非営利活動法人つむぎ
tsumugi.nantan@gmail.com



連続講座②多様な林業とチェーンソー基礎スキル

第1回 チェーンソー基礎①と多様な林業① (座学+視察) 9/20 (土)

講師：古屋 昭 さん 林災防京都府支部技能師範
堀田 暢 さん 日吉町森林組合 森林施業プランナー
チェーンソーの安全規則、構造、整備の仕方などの基礎を学び、日吉町森林組合の施業地視察と仕組みを学びます。 集合場所：日吉町胡麻基幹集落センター

第2回 チェーンソー基礎②と多様な林業② (座学+実技) 10/12 (日)

講師：芦田 拓弘 さん 株式会社あしだ取締役
用澤 修 さん 森林環境ネットワーク代表
林業事業体によるJクレジットを使った森林資源の循環利用に関する学びと、チェーンソー&斧で薪づくりを実践します。 集合場所：新庄郷育館/八木町

第3回 チェーンソー基礎③ (視察+実技) 10/25 (土)

講師：日吉町森林組合 森林技術職員
伐倒作業から木材の運びだし、保管までの一連の作業を視察、体験します。 集合場所：四ツ谷生活改善センター/日吉町

第4回 多様な林業③と森林ビジョンを学ぶ (座学+視察+ディスカッション) 11/8 (土)

講師：清水 易 さん 南丹市農林商工部農山村振興課
坂本 亮 さん 京都府南丹広域振興局森づくり振興課
林 益郎 さん 自伐型林業家
小規模林業の手法で手入れした山の視察と、森作業に必要な手続き等やこの地域の森林ビジョンについて学び、意見交換の場をもちます。 集合場所：天引村倶楽部/園部町

※チェーンソー基礎は、安全な使い方を中心に初めて使用することを想定した内容です。資格等が得られるものではありません。ご参加の方の経験や当日の環境による内容の変更があることをご了承ください。

この事業は「持続可能な里山環境維持のための活動」として、独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」を活用しています。





この事業は「持続可能な里山環境維持のための活動」として、
独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」を活用しています。



お問合せ：
特定非営利活動法人つむぎ
E-mail : tsumugi.nantan@gmail.com
HP : <https://tsumugi-kyoto.net/>

Tsumugi
つむぎ

